〈教育学部〉

科　目　名	科目区分	開講年次	必･選	開講期	単位数	担当教員名	担当形態
青少年と国際教育	専門（教育の基礎）	3	選択	前期	2	Victor Gorshkov	単独
英語科目名	School Life and International Education						

免許法施行規則に定める科目区分	教科又は教職に関する科目(小学校、中学校 英語・国語、高等学校 英語・国語)
	小学校　:（教科又は教職に関する科目） 中学校・高等学校　:（教科又は教職に関する科目）

＜授業概要＞

国際交流とグローバル化により、または多数の外国人児童生徒や帰国子女の子供たちが学校に在籍していることにより、日本の学校はまさに多国籍化･多文化し続け、そういった新しい環境の中で教員として国際教育の問題に対応できることが求められている。本授業では、日本と諸外国の国際教育に関する取り組みを紹介することにより、国際教育の様々な手法と課題について学び、国際教育が目指すべきスキルの育成について考える。

＜到達目標＞

本授業を通じて、履修生が国際教育に関する理論展開及び諸外国の独自な取り組みを理解し説明できるようになる。また、学校現場における国際教育を推進するための基礎的な知識や考え方を修得する。

＜ディプロマポリシー＞

- 基本的な学力、国際的な視野、教養、知性を伸ばし、合わせて、社会貢献する強い意志と倫理観を身につけている。
- コミュニケーション力、情報収集・活用力をのばし、自律的に学ぶ力、自己研鑽力を身につけている。
- 「アクティブ・ラーニング」「ICT の活用」「実践的道徳教育」「特別に支援の必要な児童生徒への対応」などの指導力を身につけ、初等教育専攻のものにあっては「さまざまな教科の幅広い知識と指導力」、中等教育専攻のものにあっては「専門教科に関する高い知識と指導力」を修得している。

＜学生へのフィードバック＞

授業中に行う。個人課題や提出物などに関するフィードバックが必要な学生はサポートアワーを活用すること。

＜授業／AL の進め方＞

授業の前半は、担当教員による講義、後半は反転授業というやり方で進めていく予定。受講生によるグループディスカッション及びプレゼンテーションを取り入れ、毎回リフレクションペーパーの提出が求められる。

＜利用する ICT 機器＞

パワーポイント、インターネット、Google Forms、Kahoot!、ビデオ（DVD、YouTube を含む）

＜成績評価＞

【評価方法】平常点－ 20%、グループ･プレゼンテーション－30%、学期末レポート－50%

【評価基準】平常点は授業への積極的な参加、グループディスカッションの成果発表、リフレクションペーパーの提出などを含む。プレゼンテーションは授業内容と関係するテーマを選択し、グループワークを通じて資料収集を行い、その成果を PPT 等で発表する。グループ･プレゼンテーションの発表を単位認定条件とする。期末レポートは授業で学習した内容と関連したテーマを設定し、学生が独自に書いたレポートを評価する。また、全授業を通して 5 回以上欠席した場合、評価の対象外となる。

＜教科書＞

本授業は教科書を使用しないが、参考文献を熟読して授業に参加すること。

＜参考書＞

二宮皓『世界の学校(新版)―教育制度から日常の学校風景まで』、学事出版、2015 年。
マーティン･カーノイ『グローバリゼーションと教育改革』(吉田和造訳)、東信党、2014 年。
ワディ･D･ハダット、テリ･デムスキー『教育政策立案の国際比較』(北村友人訳)、東信党、2014 年。
他の参考文献は、講義の中で随時紹介する。

＜受講学生へ＞

授業への積極的な取り組みが求められる。事前学習として国際教育および各国の教育制度に関する情報収集をし、授業で紹介してください。また、事後学習として、授業内容に関わるリフレクションペーパーをオンラインにて提出してください。英語による教材を使用する場合がある。

【授 業 計 画】

第 1 回	授業内容	オリエンテーション。本授業のねらいおよび構成。世界における教育の最近の動向を理解する。グローバリゼーションと教育の関係について考える。
	事前事後学修	シラバスを熟読してくる。世界教育水準ランキングについて情報収集を行う（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 2 回	授業内容	教育の国際化。国際教育の定義及び課題。国際バカロレア（IB）が目指す国際教育。
	事前事後学修	国際バカロレア HP から IB が目指している学習者像および教育へのアプローチをまとめる（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 3 回	授業内容	各国における国際教育に関する考え方の違い。国際教育を推進するアクターとその役割。
	事前事後学修	一つの国を選択し、その国における国際教育の定義に関する議論を調べてまとめてくる（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 4 回	授業内容	多文化教育。異文化理解を推進する教育。
	事前事後学修	多文化教育を推進している国の事例を調べ、その取り組みについてまとめてくる（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 5 回	授業内容	開発教育。持続可能な開発のための教育とは何か理解する。SDGs（持続可能な開発目標）とは何かを概観する。
	事前事後学修	開発教育の事例を調べ、簡単にまとめてくる（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 6 回	授業内容	民族と教育。グローバル・シティズンシップ教育を理解する。 （ナショナルアイデンティティからグローバルアイデンティティ形成へ）。
	事前事後学修	映画（Jane Elliott. Blue Eyes、 Brown Eyes）を鑑賞し、教育と民族および人種差別について、まとめてくる。（3 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 7 回	授業内容	国際社会に貢献する学校教育の条件について考える。
	事前事後学修	自分自身が卒業した学校はどのように国際社会に貢献しているのか、意見をまとめてくる（2 時間）。授業資料の復習およびリフレクションペーパーの作成（2 時間）。
第 8 回	授業内容	各国の国際教育の現状① イギリスのグローバル教育、グローバル学習、シティズンシップ教育について考える。
	事前事後学修	イギリス教育制度について事前に学習し、プレゼンテーションを作成する（3 時間）。授業資料の復習（1 時間）。
第 9 回	授業内容	各国の国際教育の現状② アメリカの多文化主義教育、グローバル・シティズンシップ教育に関する理解を深める。
	事前事後学修	アメリカ教育制度について事前に学習し、プレゼンテーションを作成する（3 時間）。授業資料の復習（1 時間）。
第 10 回	授業内容	各国の国際教育の現状③ドイツの異文化間教育、持続可能な開発のための教育、グローバル教育について考える。
	事前事後学修	ドイツ教育制度について事前に学習し、プレゼンテーションを作成する（3 時間）。授業資料の復習（1 時間）。
第 11 回	授業内容	各国の国際教育の現状④　ロシアにおける国際教育の捉え方を概観する。
	事前事後学修	ロシア教育制度について事前に学習し、プレゼンテーションを作成する（3 時間）。授業資料の復習（1 時間）。
第 12 回	授業内容	日本における国際教育の考え方①　国際理解教育（帰国子女教育、海外子女教育、外国語教育）を理解する。
	事前事後学修	日本教育制度について事前に学習し、プレゼンテーションを作成する（3 時間）。授業資料の復習（1 時間）。
第 13 回	授業内容	日本における国際教育の考え方② 異文化理解教育からグローバル社会に生きるための基礎能力の育成へ。
	事前事後学修	異文化理解教育を実施している教育機関の事例について調べ、まとめてくる（2 時間）。授業資料の復習（2 時間）。
第 14 回	授業内容	21 世紀型能力に関する議論。
	事前事後学修	*World Economic Forum* のデータを用いて、21 世紀に求められるスキル・能力についてまとめてくる　（2 時間）。授業資料の復習（2 時間）。
第 15 回	授業内容	グローバル社会において実践される多様な国際教育。 本授業のまとめと期末レポート課題。
	事前事後学修	期末レポートの作成（6–7 時間）。